

実線が製造業、点線が非製造業
 2020年春 サプライチェーンとまる（製造止まる）
 2022年 コロナと経済活動の両立、非製造業はいい

4. 今後の日本の景気をみるポイント

<プラス要因>

- ・コロナ落ち着く希望的観測（対面型個人サービス、インバウンドに期待・中国は？）
- ・サプライチェーン回復（自動車増産）

製造業はほぼ回復

自動車向けの半導体はまだ（特に埼玉には影響が大きい）

- ・設備投資の回復（先送り分の実現）

2022~23年も続く+ 人手不足対応 →（自動化など）合理化投資・環境対応などへの投資

<マイナス要因> 海外発

- ・物価↑ ⇒ 実質所得↓ ⇒（実質）個人消費↓
- ・海外景気↓ ⇒ 輸出↓

ゆるやかな回復（ほとんど横ばいか）が続く

5. 日本の物価と金融政策

輸入物価 ↑ → 企業物価上げざるを得ない → 消費者物価が上がる 4%上がる 1981年以來の水準

輸入物価の上昇の要因

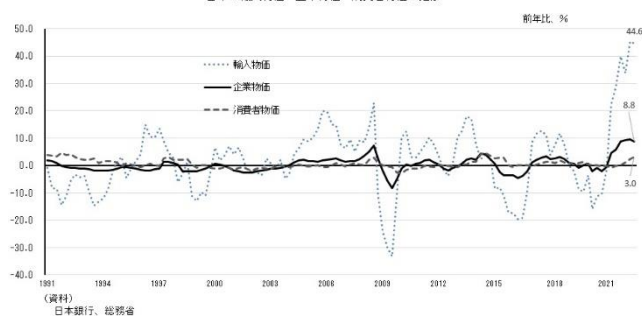
- ・エネルギー輸入して機械を輸出しているが、ウクライナの影響で上がってしまった

世界的な資源・エネルギー価格高騰と為替円安が輸入物価を押し上げ。

企業はコスト吸収を図るも、徐々に国内の企業物価、消費者物価に波及。

金融政策は、22年12月、長期金利の上昇を容認。

日本の輸入物価・企業物価・消費者物価の推移



6. 輸入物価上昇への対処法

① 交易条件の悪化

輸入（エネ・食糧）価格↑ ⇒ 輸出（機械）価格↑
 …国内で痛み分け（企業収益⇄家計所得）が必要
 ※第一次（狂乱物価）・第二次石油ショック（早期インフレ収束）の経験
 ※もともとの賃金水準の妥当性（低過ぎた？）の問題

② 為替円安

輸出寄り・海外事業展開企業 ○（得）

家計×、輸入寄り企業×（損）

…円安メリットセクターからの所得移転

（賃金↑・調達価格↑ = トリクルダウン）が必要
 しかし、なかなか働きづらい

7. 物価と賃金

<賃金停滞に至る経緯>

① ベアの凍結はいつから？

1998年の金融危機・雇用不安

② 2000年以降の賃金停滞の理由は？

- ・製造業 中国・アジアから安いものが入ってくる
- ・非製造業 パート・アルバイトに仕事に移る



<物価目標について>

③ 物価上昇率2%は妥当？

④ 物価・賃金据え置き限界は？

<コロナと物価・賃金>

⑤ 「密回避」のマクロ経済的影響は？

生産性の低下…賃金が上がりにくい

⑥ コロナ感染の恐怖：飲食店店員（一日中、感染リスク大）と客（一時的）では、どちらが深刻？

⑦ 日本と欧米、違いの背景は？

欧米は、コロナで辞めてしまうから賃金を上げる

日本は上げなくてもいいという状態（忠誠心・義務感？）



ご報告

■ ガバナー補佐 内山 泰成

■ グループ幹事 十文字 裕司

1/23（月）次次年度ガバナー補佐推薦委員会が行われました。残りの終盤戦は次年度へより良いバトンを渡せるように、第4グループの更なる結束、そして各クラブの活性化へ繋がる様に尽力してまいりますので、引き続き宜しくお願い致します。

